

# アンデレ便り

主教 アンデレ 中村 豊

## 引き裂かれた愛

長崎聖三一教会で行われた長崎原爆犠牲者記念聖餐式に参加した翌朝、滞在先のホテルからスムーズにバスに乗ることができ、飛行機出発3時間前に長崎空港に到着しました。飛行機を待つ間、待合室で週刊朝日をぱらぱらとめくっておりますと、作家の木内昇さんが執筆中の「戦地に散った球児たち・明石中学の野球」が、明石高校出身の私の目を釘付けにしました。

明石中学は1933年（昭和8）、延長25回に及ぶ伝説の準決勝で中京商業に敗退したことで有名ですが、敗退の背後には、多くの物語が隠されていたのです。



### 力投も空しく

中京商のエース・吉田正男は前年、前々年と2年連続で夏の優勝旗を手にした逸材です。明石中学の中田も集中力を欠くことなく、抜群のコントロールで中京商打線を凡打に打ち取っていきました。両者、無得点のまま10回を超え、20回に達しました。そのとき、「楠本投手を出せ」という声が上がったはずですが、楠本はエースであったのです。しかし、彼は登板しませんでした。なぜ登板の機会が与えられなかったのか謎でしたが、息子の保彦さんの話では、「親父はこのとき心臓脚気を患っていたようなんです。春頃からあまり調子はよくなかったようなのです」。夏の大会では足が小刻みに震え、顔が青黒くむくむくほど悪化し、3回戦まで投げるだけでも実は精一杯だったのです。

25回裏の中京商業の攻撃、ノーアウト一、二塁となり、さらに9番鬼頭もバントを転がし、中田は三塁封殺を狙うもセーフ。1番に返って大野木をセカンドゴロに仕留めたが本塁送球が逸れ、ここに4時間55分にも及ぶ熱戦は幕を閉じました。

明石中はベスト4に終わりましたが、「負けて帰る私たち一行を迎えて、明石駅頭は市民でいっぱい。まるで凱旋將軍を迎えるように盛大であった（明石中監督・高田勝生）」のです。

### 楠本投手の恋人

中京戦で投げられなかった楠本保投手は、明石の魚住という漁村に生まれました。魚住第二小学校野球部時代から、鉄腕ゆえ「テッチャン」とあだ名されるほど豪速球で知られていましたが、家は貧しく、比較的裕福な子供たちが通う中学に行ける環境にはなかったのですが、成績が群を抜いていたため教師からも後押しされ、昭和4（29）年、明石中に進学し、野球部に入るや頭角を現し、翌5年の第7回選抜大会では2年生にして投手で4番として活躍、ほぼ無名だった明石中の存在を広く知らしめた投手でした。

この楠本投手の投球に、一遍で魅せられた少女がいました。のちに楠本の妻となる美代

子さんという人です。親戚に誘われ出掛けた甲子園で偶然目にしたその雄姿が、彼女の内に鮮烈な印象を残したのでした。その証拠に美代子さんは、以降スコアブック片手に、足繁く明石中の試合に通うようになります。単にルックスでワーキャー言う女子ファンと違い、野球を理解し、選手を野球センスで判じるあたり、当時14歳だった彼女の本質を見抜く目の確かさと賢明さを感じさせるのです。楠本が慶応大野球部を経て、大正興業に就職した昭和16（41）年、ふたりは結婚します。

### 結婚生活は僅か10ヶ月

結婚には反対もありました。世紀の大投手・楠本の相手は有名女優がふさわしいとの乱暴な意見も周りから出ましたが、楠本は突っぱねました。自分の野球人生を見守り理解してくれた女性だからこそ、彼は大事に想ったからです。それに、写真に残る結婚当初の美代子さんは息を呑むほど美しいのです。女学生の頃から11年間一途に想い続けた人と結ばれた喜びが、彼女を内側からも輝かせていたのでしょう。

しかし彼女が切に望んだ結婚生活は、わずか10カ月で終わりを告げます。昭和17（42）年2月、楠本は召集され篠山第六十八部隊に入隊。中国江西省に出征します。同年8月に誕生した保彦さんの写真を、戦友達にうれしそうに見せていたというのですが、実際に息子を抱くことはついぞかなわなかったのです。翌年、湖北省の黄梅県に渡り、分隊長として戦っていた7月23日、頭部を弾が貫通し、亡くなりました。

奇しくもこの前日、水上機母艦「日進」の船上にあった中田武雄も、敵の攻撃を受けて命を落としています。ともに明石中を盛り上げ、兄弟のように仲の良かったふたりの投手は、1日違いで戦場に散ったのです。

### 心のふるさと甲子園・再会の希望

戦後、美代子さんは、東京の戸山母子寮に身を寄せ、都立高校の職員となり、女手ひとつで保彦さんを育て上げました。美代子さんは80歳ごろまで、春夏の甲子園球場に足を運びました。「春に行って夏の宿を予約して、夏に行って翌年春の宿をとる。体力を消耗して、新幹線で倒れたことも。おふくろの人生時計は、あの甲子園で止まっていた（保彦さん）」のです。美代子さんは昨年、98年の生涯を閉じました。楠本亡き後も、彼が躍動した甲子園に佇むことで、その雄姿を追い続けた生涯でした。



美代子さんは天国で、夫との再会を果たしているのでしょうか。知恵の書3章に次の様な言葉があります。「神に従う人の魂は神の手で守られ、もはやいかなる責め苦も受けることはない。愚かな者たちの目には彼らは死んだ者と映り、この世からの旅立ちが災い。自分たちからの離別は破滅に見えた。ところが彼らは平和のうちにいる。・・・信じる者は主の愛のうちに主と共に生きる。」

神と共にある永遠の世界は、時間や空間を乗り越えたところに存在します。イエスが「すべての人は、神によって生きている（ルカ20:36）」と言われているとおり、甦りのときが来たとき、今を生きる人たちも、すでに天に召された人たちも、「天使に等しい者」となってお互いの再会を喜びます。今を生きる私たちキリスト者は、このような希望を抱いているのです。